

呉市立天応学園 研究報告

- 1 研究の概要
- 2 カリキュラムデザイン・開発単元
- 3 ルーブリックの活用・振り返りの充実
- 4 研究を下支えする取組
- 5 児童生徒の変容・成果
- 6 カリキュラム・マネジメントの充実

研究の概要

学校教育目標

「かかわる つながる よく生きる」

目指す児童生徒像

「多様な他者と対話しながら学ぶ子供」

「自ら課題を見つけ、より良い未来へ向けて探究する子供」

「自他の幸せを考え、自ら貢献しようとする子供」

研究主題

自他の知をつなげ、粘り強く学ぶ児童生徒の育成

～ 対話 探究 貢献 を軸とした授業づくりを通して～

育成を目指す資質・能力

重点を置いた項目

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	自主性、主体性
後期	構造化され生きて働く概念的な知識や、自在に活用できる技能が身に付いている。	(実社会・実生活の中から) 問いを見いだし、効率的・効果的に分析して、根拠を明らかにしながら、論理的に表現することができる。	探究的な学習の過程において、実社会・実生活の課題を自分のこととして考え、協働的に解決に向かい、社会に貢献しようとしている。
中期	新しく学習した言葉や技能を正しく理解し活用することが身に付いている。	(実社会・実生活の中から) 問いを見いだし、効率的・効果的に分析して、根拠を明らかにしながら、順序立てて表現することができる。	探究的な学習の過程において、実社会・実生活の問題を解決するために、(自分の意思で) 目標をもち、友達と協力しながら解決に向かい、社会とつながろうとしている。
前期	新しく学習した言葉や技能を正しく理解している。	身のまわりから問題を見つけ、集めた情報から考え、理由を明らかにしながら、相手に伝えることができる。	自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを知るとともに、ちがう意見や友達の考えを大切にしながら、身のまわりのことと関わろうとしている。

課題	方策	
① 探究課題が児童生徒自身のものとなっていない。	青：問いに関する項目 黄：資質・能力に関する項目 緑：単元構想に関する項目 ・探究課題に対し 開いた問いづくり ・発達段階に応じた分類。	A
	・探究課題に係る 基礎データの整理 。 ・ データから生み出す「問い」 。	B
② 目的が不明確。情報収集が形式化。	・ 実現したい姿を明確 にし、その実現に必要な資源を検討しながら プロジェクトの立ち上げ 。「問い」を追究するために、必要かつ適切な情報収集を選択・実行。	C
③ 学んでほしいことを児童生徒に順に与えている。	・ 体験で終わる取組の廃止 。	D
	・「問い」の事前検討時に、 児童生徒の発想を想定した対応策 の準備。	E
④ 「まとめ・表現」の取組の停滞	・ 積極的な失敗体験 。	F
	・ 目的に応じた他者 （専門家、行政、地域住民等）と協働する場。	G
⑤ 探究のサイクルが繰り返されない。	・ 提案型のゴール 設定。	H
	・ 「問い」の階層 の整理。	I

カリキュラムデザイン・開発単元 ～指定3年間をまとめて～

カリキュラムデザイン

令和4年度 呉市立天応中学校区カリキュラムマップ

【学校教育目標】「かかわる つながる よく生きる」

【目指す児童生徒像】「鍛える 想う 求める」子供

知識及び技能
知識・技能

思考力、判断力、表現力等
思考力・判断力・表現力

学びに向かう力、人間性等
自主性、主体性

後期【貢献する】

中期【つながる】

前期【かかわる】

段階・学年	教科等	データの活用等	生活科・総合的な学習の時間		学校行事 特別活動
			防災・絆プロジェクト	夢・絆プロジェクト	
9 学年	国語（国語の機能を発揮して考えをまとめる） 英語（英語作文） 理科（身近な自然環境の調査） 音楽・保健体育（歌・創作ダンス） 体育（公算 地方自治）	国語（複数の情報を活用して考えをまとめる） 数学（数式図表）	みんなで守る 未来を守るⅡ ～災害に強いまちづくり（天応から防災しよう！）～	自分の未来を創ろう	生徒会活動 文化祭 学芸（食育）
8 学年	国語（国語の機能を発揮して考えをまとめる） 社会（地理 日本地図） 社会（地理 未来図画の手法） 音楽・保健体育（歌・創作ダンス） 理科（気象現象をもとに天気予報と気象） 英語（Shyversal Design） 健康（おはようの元気な「おはよう」）	国語（複数の情報を活用して考えをまとめる） 数学（部分と全体とを比べる）	みんなで守る 未来を守るⅠ ～過去から未来へ！災害の記憶をつなごう！～	働く人の思いをつなごう	キャリア・スタート・ウィーク 修学旅行 文化祭 学芸（食育）
7 学年	国語（国語の機能を発揮して考えをまとめる） 社会（地理 未来図画の手法） 音楽・保健体育（歌・創作ダンス） 理科（気象現象をもとに天気予報と気象） 英語（Shyversal Design） 健康（おはようの元気な「おはよう」）	国語（複数の情報を活用して考えをまとめる） 数学（データの活用）	みんなを守る 天応を守るⅢ ～絆をつくろう！あの人を守ろう！～	自分史を創ろう	文化祭 学芸（食育）
6 学年	国語（国語の機能を発揮して考えをまとめる） 社会（地理 未来図画の手法） 音楽・保健体育（歌・創作ダンス） 理科（気象現象をもとに天気予報と気象） 英語（Shyversal Design） 健康（おはようの元気な「おはよう」）	国語（複数の情報を活用して考えをまとめる） 数学（データの活用）	みんなを守る 天応を守るⅡ ～つながろう 天応～	ありがとうを伝えよう	平和の園見学 修学旅行 ありがとうの命の授業
5 学年	国語（国語の機能を発揮して考えをまとめる） 社会（地理 未来図画の手法） 音楽・保健体育（歌・創作ダンス） 理科（気象現象をもとに天気予報と気象） 英語（Shyversal Design） 健康（おはようの元気な「おはよう」）	国語（複数の情報を活用して考えをまとめる） 数学（データの活用）	みんなを守る 天応を守るⅠ ～自然の営みに備えよう～	さあ、6年生に チャレンジ！	野外活動 6年生ありがとう集会
4 学年	国語（国語の機能を発揮して考えをまとめる） 社会（地理 未来図画の手法） 音楽・保健体育（歌・創作ダンス） 理科（気象現象をもとに天気予報と気象） 英語（Shyversal Design） 健康（おはようの元気な「おはよう」）	国語（複数の情報を活用して考えをまとめる） 数学（データの活用）	自分の命は自分で守るⅡ ～災害時にも生活（健康）を守ろう～	大きなあれ！ ここからだ	食育セミナー 遊びがき指導 二分の一成人式
3 学年	国語（国語の機能を発揮して考えをまとめる） 社会（地理 未来図画の手法） 音楽・保健体育（歌・創作ダンス） 理科（気象現象をもとに天気予報と気象） 英語（Shyversal Design） 健康（おはようの元気な「おはよう」）	国語（複数の情報を活用して考えをまとめる） 数学（データの活用）	自分の命は自分で守るⅠ ～もしも災害が起きたら～	コスモス園の方と 交流しよう	自転車教室
2 学年	国語（国語の機能を発揮して考えをまとめる） 社会（地理 未来図画の手法） 音楽・保健体育（歌・創作ダンス） 理科（気象現象をもとに天気予報と気象） 英語（Shyversal Design） 健康（おはようの元気な「おはよう」）	国語（複数の情報を活用して考えをまとめる） 数学（データの活用）	天のうみまをしよう	あしたへジャンプ	学校探検 町探検
1 学年	国語（国語の機能を発揮して考えをまとめる） 社会（地理 未来図画の手法） 音楽・保健体育（歌・創作ダンス） 理科（気象現象をもとに天気予報と気象） 英語（Shyversal Design） 健康（おはようの元気な「おはよう」）	国語（複数の情報を活用して考えをまとめる） 数学（データの活用）	がっこう だいすき	じぶんでできるよ もうすぐ2ねんせい	交通安全教室 学校探検・遊びの会

学年間の
系統性の整理

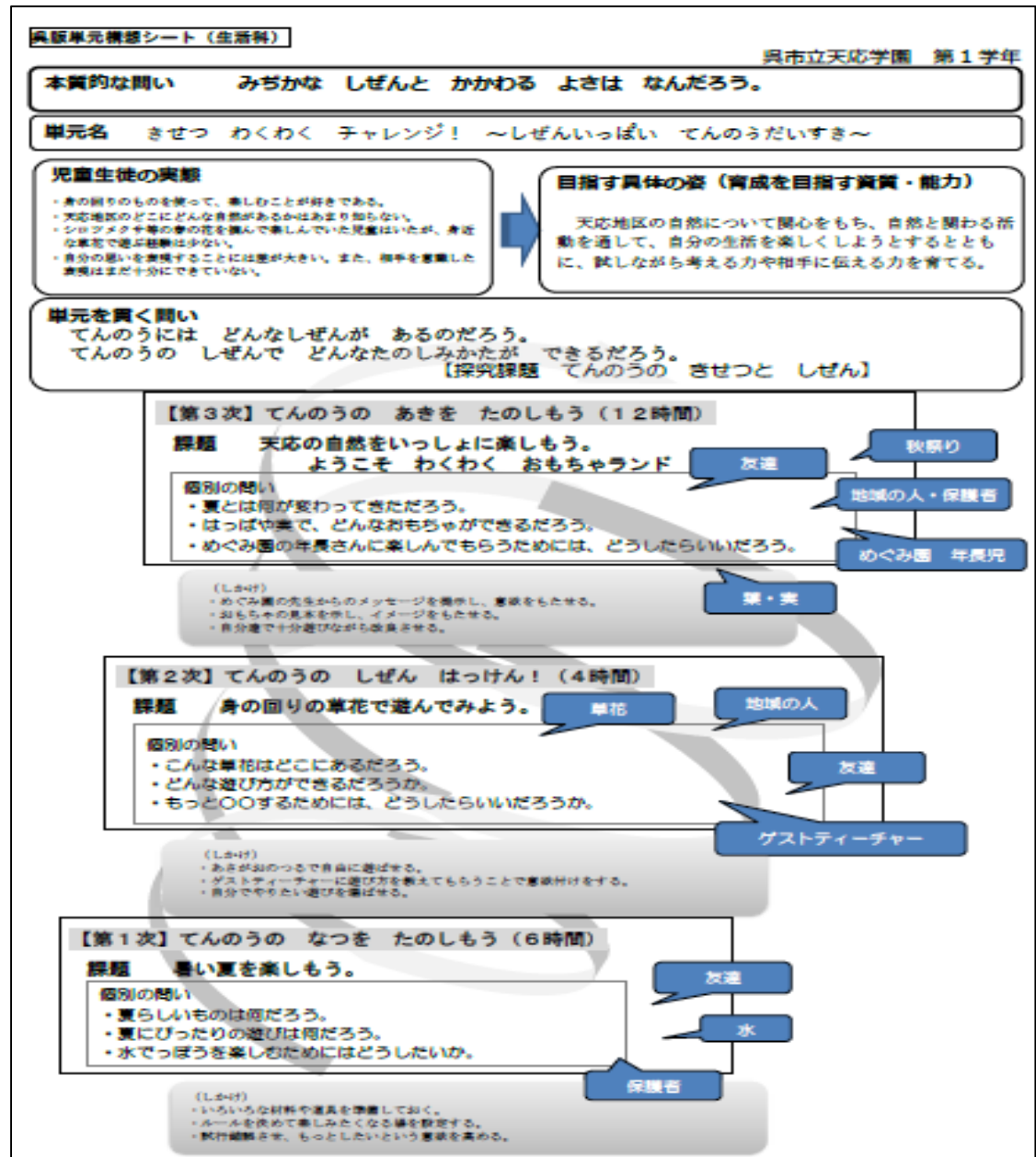
各教科等との
関連の整理

データ活用

開発単元 (1年生活)

自然物活用

他者との つながり



方策Ⅰ【問いの階層整理】

本質的な問い みちかな しぜんと かかわる よさは なんだろう。

単元名 きせつ わくわく チャレンジ！ ～しぜんいっぱい てんのうだいすき～

児童生徒の実態

- ・身の回りのものを使って、楽しむことが好きである。
- ・天応地区のどこにどんな自然があるかはあまり知らない。
- ・シロツメクサ等の春の花を摘んで楽しんでいた児童はいたが、身近な草花で遊ぶ経験は少ない。
- ・自分の思いを表現することには差が大きい。また、相手を意識した表現はまだ十分にできていない。



目指す具体の姿（育成を目指す資質・能力）

天応地区の自然について関心をもち、自然と関わる活動を通して、自分の生活を楽しくしようとするとともに、試しながら考える力や相手に伝える力を育てる。

単元を貫く問い

てんのうには どんなしぜんが あるのだろう。

てんのうの しぜんで どんなたのしみかたが できるだろう。

【探究課題 てんのうの きせつと しぜん】

第1次

課題：暑い夏を楽しもう。

【しかけ】身近な「夏らしさ」に注目させ、様々な道具を活用しながら、工夫して遊びを楽しむ方法を考えさせる。

探究

第2次

課題：身の回りの草花で遊んでみよう。

【しかけ】ゲストティーチャーのアドバイスをもとに、地域でとれる草花を使ってできる遊びを考えさせる。

対話

第3次

課題：わくわくおもちゃランドを企画し、天応の自然を使って遊ぼう。

【しかけ】夏と秋で採れる草花の違いに注目させ、これまで学習してきたことを生かして、年長児を楽しませる遊びを考えさせる。

貢献

方策 G 【他者との協働】

ゲストティーチャーの活用



方策 F 【失敗の経験】



わくわくおもちゃランド(単元の最後の活動)に向けて、年長児に楽しんでもらうおもちゃを試作。

うまくいかなかったも、子供同士で話し合ったり試したりしながら解決させた。

方策 C 【プロジェクトの立ち上げ】

方策 H 【提案型のゴール】

わくわくおもちゃランド



自作のおもちゃを
地域の年長児に紹介

開発単元 (4年総合)

防災学習 避難生活

本質的な問い 助けられる人から助ける人になるために、何ができるのだろう。

単元名 じぶんの命は自分で守る II ～災害時にも生活（健康）を守ろう～

児童生徒の実態

- ・3年生の時には、安全マップを作成したが、災害に関する知識等について、正しく理解している児童は限られている。
- ・多くの児童は主体的に取り組むが、調べたり、読み取ったり、まとめることは十分ではない。
- ・自ら課題を発見し、追究していくことに課題がある。

目指す具体の姿（育成を目指す資質・能力）

- ・既知と新しい知識を関連付けたり、組み合わせたりして、防災に対する新しい知識を身につけることができる。（知識・技能）
- ・複数の事柄や資料などについて、自分で視点を設けて比較、分類、関連付けてまとめて表現することができる。（思考力・判断力・表現力）
- ・課題解決に向け、対象に対して進んで自ら働きかけることができる。（自主性・主体性）

単元を貫く問い 災害時に困らないようにするために、自分の命をどのように守るのか。～自分にできること～

【探究課題 防災のための安全な町づくりとその取組。】

【第3次】

課題 どうしたら自分たちが考えたことや学習したことを多くの人に知ってもらえるのだろう。

個別の問い

- ・他のクラスや地域の方などに防災対策の現状と対策を伝えるにはどうしたらよいのだろう。
- ・誰にでも分かりやすい内容にするためには、どのようにまとめるとよいのだろうか。

つながる@天応の方

まちづくりセンターの方

保護者

地域の方

（しかけ）

- ・災害時にみんなが役立つ情報をまとめた広報紙等を作成することを通して、助けられる人から助ける人になる意味や価値について気付かせる。

【第2次】

課題 災害時にも、健康でいるためにはどうすればよいのだろうか。

個別の問い

- ・どれくらいの人たちが被災への備えをしているのだろう。
- ・災害に備えるにはどんな準備が必要なのだろう。
- ・備蓄倉庫の中に何があり、どんな理由で備えてあるのだろう。
- ・体育館に泊まってみよう。

地域の方

被災して避難所生活をした時に自分の命を自分で守るにはどうしたらよいのだろうか。

保護者・各家庭

危機管理課の方

危機管理課の方

（しかけ）

- ・危機管理課の方の話を聞き、備蓄倉庫に備えているものや理由を知る。
- ・体育館に泊まり、災害時に必要な物に気付かせる。

【第1次】

課題 「健康」～もしもを想起して災害時に困ること～

被災された方の声（インターネット）

個別の問い

- ・災害時に困ることはなんだろう。
- ・実際に被害に遭われた方の声を聞いてみよう。
- ・実際に経験した人はどんなことに困ったのだろう。

（しかけ）

- ・経験された方の話を聞き、災害時と日常生活の違いに気付く。

見直しポイント

探究的な学習の過程に沿った単元構成

- ①単元を通して、資質・能力を育成する「探究課題」等を設定しているか
 - ・解決の道筋がすぐには明らかな課題や、一つの正解が存在しない課題となっているか。
 - ・児童生徒が日常生活や社会に目を向け、解決したいと思える課題となっているか。
- ②児童生徒の思考を想定し、効果的な過程になっているか
 - ・活動をこなすだけになっていないか。
 - ・児童生徒から問いを生み出すきっかけがあるか。
 - ・学習したことを表現する場を設定しているか。
- ③サイクルとサイクルのつながりがスムーズとなっているか
 - ・第1次だけで構成していないか。
 - ・第1次のまとめと第2次の課題設定がつながっているか。

方策Ⅰ【問いの階層整理】

本質的な問い

助けられる人から助ける人になるために、何ができるのだろう。

単元名

じぶんの命は自分で守る Ⅱ ～災害時にも生活（健康）を守ろう～

児童生徒の実態

- ・ 3年生の時には、安全マップを作成したが、災害に関する知識等について、正しく理解している児童は限られている。
- ・ 多くの児童は主体的に取り組むが、調べたり、読み取ったり、まとめたりすることは十分ではない。
- ・ 自ら課題を発見し、追究していくことに課題がある。

目指す具体の姿（育成を目指す資質・能力）

- ・ 既知と新しい知識を関連付けたり、組み合わせたりして、防災に対する新しい知識を身につけることができる。（知識・技能）
- ・ 複数の事柄や資料などについて、自分で視点を設けて比較、分類、関連付けてまとめて表現することができる。（思考力・判断力・表現力）
- ・ 課題解決に向け、対象に対して進んで自ら働きかけることができる。（自主性・主体性）

単元を貫く問い

災害時に困らないようにするために、自分の命をどのように守るのか。～自分にできること～

【探究課題

防災のための安全な町づくりとその取組。

】

第1次

課題：「健康」～もしもを想起して災害時に困ること～
【しかけ】経験された方の話を聞き，災害時と日常生活の違いに気付かせる。

対話

第2次

課題：災害時にも健康でいる方法を探究しよう。
【しかけ】危機管理課の方の話や実際に避難所に泊まり，災害時に必要な物に気付かせる。

探究

第3次

課題：自分たちの考えを多くの人に知ってもらおう。
【しかけ】広報誌等を作成し，助ける人になる意味や価値に気付かせる。

貢献

方策 C 【プロジェクトの立ち上げ】

方策 A 【開いた問い】

新体育館での防災宿泊体験



「避難時にはどのようなことが大切か」を調べるために、避難生活を実際に体験しようと子供たち自身が発案。分かったことをまとめ、地域に発信しようと考えた。



食事や避難グッズなど、避難時に持ち出すものも自分たちで用意した。

方策 D 【体験で終わらない】

体験活動は
課題解決のための「情報収集」



宿泊体験の目的は、避難時に必要なことを知り、それを地域に発信すること。体験活動は、あくまで情報収集の1つという位置付けで学習を展開。

開発単元 (6年総合)

防災学習 まちづくり

呉版単元構想シート（総合的な学習の時間）

呉市立天応小学校 第6学年

本質的な問い 自然災害が多く起こる時代において、自分はどう生きるのか。

単元名

自分の命は自分で守る

児童生徒の実態

- ・4年生では「地震」、5年生の時には「自然」という視点から、防災学習に取り組んでいる。その中で、災害の備えについての知識・技能はある程度身に付けている。
- ・災害時の健康を守る「非常食」「缶詰」、地域の危険箇所を知る「防災マップ」作りなどを通じて思考力・判断力・表現力を養成してきたが、自ら問題解決に取り組むところまでには至っていない。
- ・経験上、防災学習の必要性は感じているが、そのために自分はどうするかという視点は十分指導できていない。

目指す具体の姿（育成を目指す資質・能力）

西日本豪雨災害や災害支援について、情報収集したり実践したりする学習を通して、持続可能な防災活動について理解し、災害に強いまちづくりの在り方について考え、自らの生活や行動に生かそうとする姿。

単元を貫く問い

災害から命や地域を守るために、自分たちにできることはなんだろう。

【探究課題】 災害や防災を通して住み続けられるまちづくりについて考える。

】

【第3次】 つながろう、天応（仮）（15時間）

課題 持続可能な活動にするために、発信しよう。

地域の人・保護者・中学校

個別の問い

- ・普段からつながりを作るにはどうしたらよいだろう。
- ・普段から災害に備えるためには何ができるだろう。
- ・周りの人に協力してもらえそうなことは何だろう。

（しかけ）

- ・第2次から生まれた問いをもとに、異なる問いを作らせる。
- ・「学校の記録として位置付ける」「募金活動をする」「地域のポスターシアや施設と連携する」ことで地域や被災地に貢献する。
- ・ゴールとして「防災教育発表会」を設ける。

【第2次】 できることからやってみよう！ 災害ボランティア（20時間）

課題 今、自分たちにできる災害支援はなんだろう。

個別の問い

- ・西日本豪雨災害で支援をしてくれた人・今支援活動をしている人たちは、どのように支援に関わっているのだろう。
- ・今、災害の被害に遭っている人たちに何ができるだろう。
- ・地域の人たちは支援についてどんな思いをもっているだろう。

地域の人

他の被災地域の6年生

熱海市立伊豆山小学校

尾島香夫さん・作新学院

在校生

見直しポイント

探究的な学習の過程に沿った単元構成

- ①単元を通して、資質・能力を育成する「探究課題」等を設定しているか
- ・解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や、一つの正解が存在しない課題となっているか。
- ・児童生徒が日常生活や社会に目を向け、解決したいと思える課題となっているか。
- ②児童生徒の思考を深め、効果的な過程になっているか
- ・活動をこなすだけになっていないか。
- ・児童生徒から思いを生み出すきっかけがあるか。
- ・学習したことを実践する場を設定しているか。
- ③サイクルとサイクルのつながりがスムーズになっているか
- ・第1次だけで満足していないか。
- ・第1次のまとめで第2次の課題設定がつかっているか。

被災や災害支援の様子の資料

【第1次】「O706ミュージアム」をつくろう（20時間）

課題 西日本豪雨について、下学年に知らせよう。

個別の問い

- ・西日本豪雨災害とは、どんな災害だったのか。
- ・そのとき天応の人々は、何を思い、どんな行動を取ったのか。
- ・全国からの支援には、どのようなものがあったのか。

地域の人

1年生

（しかけ）

- ・西日本豪雨災害について下学年に伝えるという目的意識・相手意識をもたせる。
- ・災害の実際を「写真・地図」「データ」「地域の人々や自分たちの証言」「災害支援」についてそれぞれ探究する。
- ・ゴールとして「O706ミュージアム」「防災集会」を設ける。

方策 I 【問いの階層整理】

本質的な問い 自然災害が多く起こる時代において、自分はどう生きるのか。

単元名

自分の命は自分で守る

児童生徒の実態

- ・ 4年生では「健康」、5年生の時には「自然」という視点から、防災学習に取り組んでいる。その中で、災害の備えについての知識・技能はある程度身に付けている。
- ・ 災害時の健康を守る「非常食」「体操」、地域の危険箇所を知る「防災マップ」作りなどを通じて思考力・判断力・表現力を育成してきたが、自ら問題解決に取り組むところまでには至っていない。
- ・ 経験上、防災学習の必要性は感じているが、そのために自分はどうするかという視点は十分指導できていない。



目指す具体の姿（育成を目指す資質・能力）

西日本豪雨災害や災害支援について、情報収集したり実践したりする学習を通して、持続可能な防災活動について理解し、災害に強いまちづくりの在り方について考え、自らの生活や行動に生かそうとする姿。

単元を貫く問い

災害から命や地域を守るために、自分たちにできることはなんだろう。

【探究課題 災害や防災を通して住み続けられるまちづくりについて考える。】

第1次

課題：西日本豪雨について、下学年へ伝えよう。

【しかけ】「0706ミュージアム」に向け、「地域の人たちの証言」「データ」、「災害支援」について、探究させる。

探究

第2次

課題：できるところからやってみよう！災害ボランティア

【しかけ】「支援してくれた人」「支援が必要な人」「かつて支援が必要だった人」「支援している人」と対話させる。

対話

第3次

課題：持続可能な活動にするために発信しよう。

【しかけ】地域や被災地に貢献できることを企画・実行させる。

貢献

方策 C 【プロジェクトの立ち上げ】

方策 G 【他者との協働】

0706ミュージアム



災害の記憶を風化させないために、被災時の様子や地域の人々の声をまとめたミュージアムを企画。



来校者を自分たちで案内・説明



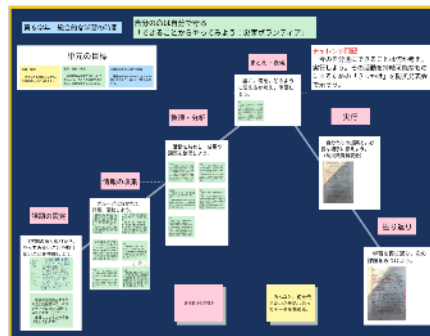
支援に尽力された方へインタビュー

方策 A 【開いた問い】

方策 D 【体験で終わらない】

「個別の問い」
個人→グループで共有

体験活動は
課題解決のための「情報収集」



学びのフレーミング

方策 F

【失敗を経験させる】

児童が行き詰まることを想定



あえて失敗させ、その理由を考えさせる。



次の活動につなげるきっかけに



支援したい旨の電話を入れるが、「もう、特に必要ない」と断られてしまう。
そのため、「いつでも支援できるように物資を準備する」と活動計画を変更した。

方策 C 【プロジェクトの立ち上げ】

方策 H 【提案型のゴール】

第2次でのまとめ

○タイミングの良い災害支援



「備え」と「情報」が必要

わたしたちの提案

ボランティアの委員会を学校につくり，地域の大人の人たちにも協力してもらう。



地元ボランティア団体との
タイアップ企画

開発単元 (6年総合)

防災学習

思いの 継承

本質的な問い 地域とどのようにつながり、どのように生きるのか。

単元名 みんなを守る 天応を守るⅡ ～つながろう 天応～

児童生徒の実態

- ・ これまでも防災の学習をしてきている。1学期の学習で、地域の方の防災や町づくりへの思いに触れることができた。
- ・ 自分の考えを伝えることに消極的な児童や、折り合いを付けて考えを整理することが苦手な児童がいる。
- ・ 自ら課題を発見し、追究していくことに課題がある。

目指す具体の姿（育成を目指す資質・能力）

- ・ 地域とのつながりや人との関わりと感謝の気持ちを伝える意義を理解することができる。（知識・技能）
- ・ 相手や目的に応じて、分かりやすく表現することができる。（思考力・判断力・表現力）
- ・ 課題解決に向け、自分のよさに気づき、探究活動に進んで取り組もうとする。（自主性・主体性）

単元を貫く問い 「今だからこそ」の活動として、天応小最後の卒業生として、何ができるのだろうか。

【探究課題 防災のための安全な町づくりとその取組】

【第3次】

課題 「つながろう天応」まちづくりに参画しよう！

個別の問い

- ・ 義務教育学校になって変わること変わらないことは何だろう。
- ・ 小学校がなくなる前に記録しておく「今だからこそ」の表現の工夫には何があるかな。
- ・ 義務教育学校の開校を地域の方がより楽しみにできる表現の工夫は何だろう。
- ・ 高齢の方まで分かりやすい内容になっているだろうか。

イベントの手伝い

（しかけ）

・ 最後の卒業生として、今の天応小の様子や義務教育学校の開校に向けた様子をまとめた広報紙等を作成することを通して、地域とのつながりや伝統を受け継ぐ意味や価値に気付かせる。

【第2次】

課題 体育館に込められた思いを地域の人に発信するにはどうすればよいだろうか？

個別の問い

- ・ 建設中の体育館には、どんな思いが込められているのだろう。
- ・ 防災拠点としての体育館を、地域の人に伝えるには、どんな方法があるのだろう。その方法は実行可能かどうか確かめよう。
- ・ 事実と意見を整理して表現するために工夫しよう。
- ・ 発信した内容がどうであったか、ふり返ろう。

もうすぐ体育館は完成する。「地域の方にその魅力」を発信するのに力を貸してほしいという依頼を校長先生から受ける。

ポスター？リーフ？動画？HP？

建設に関わる人（教育委員会）

まちづくりセンター長さん

建設前から関わっている校長先生・地域の方

友井自治会長さん

保護者・地域の人

アンケート
(Forms)

（しかけ）

- ・ 1次の地域の方の町づくりに対する思いとつながる。
- ・ 建設中の体育館の建設に関わっておられる方の話を聞くことで、地域の防災拠点としての機能があることに気付く。

【第1次】

課題 「防災」～今まで、そしてこれから～

個別の問い

- ・ これまでの学習を6年生としてどう発信していけばいいかな。
- ・ 友井自治会長さんは、防災や天応の町づくりにどのような思いをもたれているのだろう。
- ・ 当たり前前に生活している天応の町にはどのようなよさ（ひと・もの・こと）があるのだろう。

地域の方

（しかけ）

地域の方の話を聞き、防災の学習の根幹には、町づくりに対する人々の思いが込められていることに気付く。

見直しポイント

探究的な学習の過程に沿った単元構成

- ①単元を通して、資質・能力を育成する「探究課題」等を設定しているか
 - ・ 解決の道筋がすぐには明らかな課題や、一つの正解が存在しない課題となっているか。
 - ・ 児童生徒が日常生活や社会に目を向け、解決したいと思える課題となっているか。
- ②児童生徒の思考を想定し、効果的な過程になっているか
 - ・ 活動をこなすだけになっていないか。
 - ・ 児童生徒から問いを生み出すしかけがあるか。
 - ・ 学習したことを表現する場を設定しているか。
- ③サイクルとサイクルのつながりがスムーズとなっているか
 - ・ 第1次だけで構成していないか。
 - ・ 第1次のまとめと第2次の課題設定がつながっているか。

方策Ⅰ【問いの階層整理】

本質的な問い 地域とどのようにつながり、どのように生きるのか。

単元名 みんなを守る 天応を守るⅡ ～つながろう 天応～

児童生徒の実態

- ・これまでも防災の学習をしてきている。1学期の学習で、地域の方の防災や町づくりへの思いに触れることができた。
- ・自分の考えを伝えることに消極的な児童や、折り合いを付けて考えを整理することが苦手な児童がいる。
- ・自ら課題を発見し、追究していくことに課題がある。

目指す具体の姿（育成を目指す資質・能力）

- ・地域とのつながりや人との関わりと感謝の気持ちを伝える意義を理解することができる。（知識・技能）
- ・相手や目的に応じて、分かりやすく表現することができる。（思考力・判断力・表現力）
- ・課題解決に向け、自分のよさに気づき、探究活動に進んで取り組もうとする。（自主性・主体性）

単元を貫く問い 「今だからこそ」の活動として、天応小最後の卒業生として、何ができるのだろうか。

【探究課題 防災のための安全な町づくりとその取組】

第1次

課題：地域の防災の「これから」について探究しよう。

【しかけ】地域の方の話を聞き、防災学習の根幹には、まちづくりに対する人々の思いが込められていることに気付かせる。

探究

第2次

課題：新体育館に込められた思いを地域の人に発信しよう。

【しかけ】建設に携わった方の話を聞き、地域の防災拠点としての役割に気付かせる。

対話

第3次

課題：災害に強いまちづくりに参画しよう。

【しかけ】広報誌を作成し、地域とのつながりや伝統を受け継ぐ意味や価値に気付かせる。

貢献

方策 G 【他者との協働】

建設に携わった人とのつながり



設計士の方をお招きし、建設に込めた思いや、災害への対策を考えた設備を学習。

子供たちのまとめや発表内容にアドバイスを頂くなど、継続的につながった。

方策 H 【提案型のゴール】

地域に発信



込められた思いを伝える



作成動画 check !
【子供向け】 【大人向け】



開発単元 (7年総合)

生き方 学習

真価単元構想シート（総合的な学習の時間）

呉市立天応学園 第7学年

本質的な問い 自分は将来、どう生きたいか。

単元名 It's my life. ～自分史作りを通して～

児童生徒の実態

- ・自分のこと（痛みや喜び、何をしたいか）をよく知らない。
- ・具体的な目標なく生活している。
- ・環境が実中である。
- ・今後、職業は数学や物理専攻を考えている。
- ・あまり将来のことを考えていない。

目指す具体的姿（育成を目指す資質・能力）

- ・自分について理解している。（自己認識）
- ・目標を持って生活している。
- ・自分の思いや考えを、筋道立てて分かりやすく伝えることができる。（自己表現）
- ・職業観のイメージや進路選択への意識をもっている。（自己決定）
- ・よりよい未来のために、自分を高める努力をしている。

単元を貫く問い よりよい将来の実現のためには、何が必要か。
【探究課題】 将来にわたって輝ける生き方を考える。】

【第3次】（9時間） 課題 未来創造プロジェクト ～生き方座談会（仮称）を開こう～

アンケート

個別の問い

- ・自分史発表会でもらった意見や感想を受けて、もっと考えなければならないことはないだろうか。
- ・未来の計画は立てられたが、未来史を表現させるためにはどんなことが必要だろうか。
- ・どんなことを大事にして生きていけば、人生をより輝かせるだろうか。
- ・大人たちはどんな生き方をしているのだろうか。
- ・どんな人から、どんな話を聞いたら参考になるだろうか。
- ・今、自分が大切にしている価値観や生き方は何だろう。また、それらはどう形成されたのだろうか。
- ・自分の生き方に影響を与えた人や経験、言葉等はあるだろうか。
- ・今後大事にしたい「生き方」「価値観」「言葉（座右の銘）」や「将来、成し遂げたいこと」などを考えよう。
- ・生涯にわたって大事にしたいこと、ライフステージごとに大事にしたいことはそれぞれどんなことだろう。
- ・「生き方座談会（仮称）」を終えて、得たことや考えたことは何だろう。
- ・よりよい将来を実現するために何が必要か。

（しかけ）

- ・アンケート（先生・保護者・地域の方）をとり、「夢の実現」や「人生についての満足度」などを問う。夢を実現させても今に満足できるとは限らないことに気付かせ、「なぜか」を考えさせることを通して、よりよい人生を歩むために大切なことを考えさせる。
- ・自分が大事にしたい「生き方」「価値観」「言葉」等の発表を行うとともに、人生の先輩方と将来の生き方について意見交換する。

【第2次】（8時間） 課題 自分史を作ろう ～これまでを見つめ、未来を描く～

個別の問い

- ・「過去・現在」までの自分史をよりよいものに改善するとしたらどんな点を改善できるだろう。
- ・未来史にはどんなことを盛り込もう。
- ・将来、どんな自分になりたいか。どこに住んで、何をして、どんな生活をしているだろう。
- ・どんな仕事があるだろう。またどんな仕事が自分に向いているだろう。
- ・仕事を志望上で大切にしたいことは何だろう。
- ・ライフステージごと（高校・大学・20代・30代・・・90代）にどんな自分をイメージするか。
- ・自分史（過去・現在・未来）発表会を終えて、得たことや考えたことは何だろう。

（しかけ）

- ・自分を知る活動の際に、他者からの評価をもらう機会を設定することで、自己分析を客観的にも行えるようにする。
- ・ライフステージごとに自分を想像させることで、未来史を具体的に作成しようとする意欲を持たせる。

【第1次】（9時間） 課題 自分史を作ろう ～これまでの歩みを見つめる～

個別の問い

- ・よりよい将来を実現するために何が必要か。
- ・自分のことをよりよく知るためにはどんな方法があるだろう。
- ・自分の過去や現在をどうやって振り返ろう。
- ・どんな目的、どんな内容、どんな形式で自分史を作ったら将来設計に役立つだろう。
- ・「過去・現在」までの自分史を発表し合って、どんなことを考えたか。

アンケート

卒業文集、キャリアログ、友達や家族の絵、家にある昔の写真やビデオ

先生、クラスメイト

（しかけ）

- ・過去を振り返る場面、親や友人等からの思いを聞く。
- ・自分史作りを軸に学習を進めていく。過去・現在を振り返ることで自己認識を深め、将来の展望を描く土台とする。

方策 I 【問いの階層整理】

本質的な問い 自分は将来、どう生きたいか。

単元名 It's my life. ～自分史作りを通して～

児童生徒の実態

- ・自分のこと（強みや弱み、何をしたいか）をよく知らない。
- ・具体的な目標なく生活している。
- ・表現が苦手である。
- ・今後、職場体験学習や進路選択を控えている。
- ・あまり将来のことを考えていない。

目指す具体の姿（育成を目指す資質・能力）

- ・自分について理解している。（自己認識）
- ・目標を持って生活している。
- ・自分の思いや考えを、筋道立てて分かりやすく伝えることができる。（自己表現）
- ・勤労観のイメージや進路選択への意欲をもっている。（自己決定）
- ・よりよい未来のために、自分を高める努力をしている。

単元を貫く問い よりよい将来の実現のためには、何が必要か。

【探究課題 将来にわたって輝ける生き方を考える。】

第1次

課題：自分史（過去・現在編）を作ろう

【しかけ】自分自身をしっかり振り返られるよう、卒業文集や家族の話、過去の写真やキャリアログなどを活用して考えさせる

探究

第2次

課題：自分史（未来編）を作ろう

【しかけ】自分の未来をライフステージごとに区切らせ、その場面で必要となることを想像させながら考えさせる。また、自分の発表に対する他者からのアドバイスを参考にしてまとめさせる。

探究

第3次

課題：未来創造プロジェクト 生き方座談会を開こう

【しかけ】伝記や職業人の話などから人生をより輝かせる生き方を考えさせ、自分が大切にしたい生き方をまとめ、地域の人に表現させる。

対話

貢献

方策 B 【データから生み出す問い】

アンケート結果から問いや次の活動を見出させる



単元の様々な場面でデータを提示。
データに触れる習慣を持たせるように工夫。

23.1% (6人)	17.7% (2人)
夢や理想の実現 ○ 人生に満足 ○	夢や理想の実現 ○ 人生に満足 ×
夢や理想の実現 × 人生に満足 ○	夢や理想の実現 × 人生に満足 ×
53.8% (14人)	15.4% (4人)

【生徒】

「夢や理想を実現できていないけど、人生に満足しているという人が意外と多い。なぜだ…」

方策 H 【提案型のゴール】

地域の方との「生き方座談会」



単元を通じてまとめてきた「自分たちが大切にしたい生き方」を発表。
地域の方も自分の「生き方」を語り、より良い生き方を考え合う機会となった。

開発単元 (7年総合)

防災学習 まちづくり

呉版単元構想シート（総合的な学習の時間）

呉市立天応中学校 第1学年

本質的な問い 天応で育った自分は、どう生きるのか。

単元名 「みんなを守る 天応を守るⅢ」～絆をつよく！あの人を守ろう！～

児童生徒の実態

- ・防災・減災について、これまで継続して学んできている。
- ・地域のために貢献しようという意欲がある。
- ・データを考察しながら考えを導き出すことに課題がある。
- ・自分の意見を根拠をもとに伝えることに課題がある。

目指す具体の姿（育成を目指す資質・能力）

地域の防災力を向上させる取組を考え、それを提案したり他者と一緒に活動したりすることを通して、災害の記憶を風化させず、他者と協働して防災に取り組む大切さを理解するとともに、自分や地域の人々の命を災害から守る方法について考え、災害に強いまちづくりのために行動している。

単元を貫く問い 地域の防災力を向上させるためにはどうすればよいだろう。

【探究課題】 防災に関する地域の課題を解決し、地域の防災力を向上させる取組をしよう。

【第2次】（16時間）

課題 防災に関する地域の課題を解決し、地域の防災力を向上させる取組をしよう。

個別の問い

- ・防災について、天応の課題は何だろうか。
- ・防災についての天応の課題を解決するためには、どうすればよいだろうか。
- ・防災力とは、具体的にどんなことができる力だろうか。
- ・収集した情報の内、自分たちが考える取組に活用できる情報は何か。
- ・相手（児童や地域の大人）が防災について分かりやすく知れたり考えたりできる方法とはどんな方法だろうか。

（しかけ）
地域や保護者等を対象としたアンケート調査について、事前に仮説を立てさせ、結果との違いを分析・考察することを通して、想定と現実の差を理解しながら、自分の考えを裏付けする根拠を持って取組を考えられるようにする。
また、自分の考える取組について外部人材からアドバイスをもらう場面を設定することを通じて、より良い取組となる方法を見つけ、自信と意欲をもって学習できるようにする。

【第1次】（20時間）

課題 小学6年生の「つながろう天応」を受け継ぎ、天応に住む人々とのつながりを作ろう。

個別の問い

- ・小学6年生では、どんなことを学習してきたか。
- ・つながりを作る上で対象とする相手は誰か。
- ・地域の人とのつながりを作るのはなぜか。
- ・地域の幼稚園児を対象とした絵本を作る際、どんな内容をどんな言葉で表していけばよいだろうか。
- ・地域の高齢者をつながりを作ろうとする場合、どんな方法があるだろうか。
- ・公営住宅の方との交流イベントでは、地域ボランティア団体とどんな連携をしておけばよいだろうか。

（しかけ）
対象とする相手との電話連携やミーティングを行いながらつながりを作る方法を考えることを通じて、相手意識をもって方法を考えるとともに、見通しをもって計画的に考えることができるようにする。

地域・保護者

天応支所

復興総室、危機管理課

天応小の児童
保護者

呉高専

天応めぐみ園

地域ボランティア団体
「つながろう天応」

天応に住む高齢者の
方々

天応中学校 生徒総会

方策Ⅰ【問いの階層整理】

本質的な問い

天応で育った自分は、どう生きるのか。

単元名

「みんなを守る 天応を守るⅢ」～絆をつよく！あの人を守ろう！～

児童生徒の実態

- ・防災・減災について、これまで継続して学んできている。
- ・地域のために貢献しようという意欲がある。
- ・データを考察しながら考えを導き出すことに課題がある。
- ・自分の意見を根拠をもとに伝えることに課題がある。

目指す具体の姿（育成を目指す資質・能力）

地域の防災力を向上させる取組を考え、それを提案したり他者と一緒に活動したりすることを通して、災害の記憶を風化させず、他者と協働して防災に取り組む大切さを理解するとともに、自分や地域の人々の命を災害から守る方法について考え、災害に強いまちづくりのために行動している。

単元を貫く問い

地域の防災力を向上させるためにはどうすればよいだろう。

【探究課題】 防災に関する地域の課題を解決し、地域の防災力を向上させる取組をしよう。

第1次

課題：「つながろう天応」を受け継ぎ天応に住む人々との
つながりを作ろう。

【しかけ】対象とする相手との電話連携やミーティングを行いながら
らつながりを作る方法を探究させる。

対話

探究

第2次

課題：地域の防災力を向上させる取組をしよう。

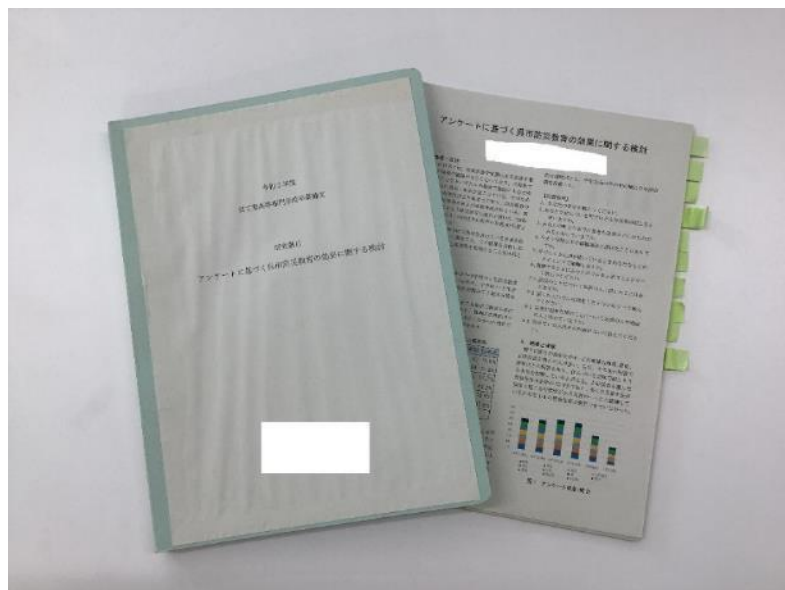
【しかけ】地域や保護者等を対象としたアンケート調査の分析や外
部人材からのアドバイス等を活用しながら、より良い取
組を考えさせる。

対話

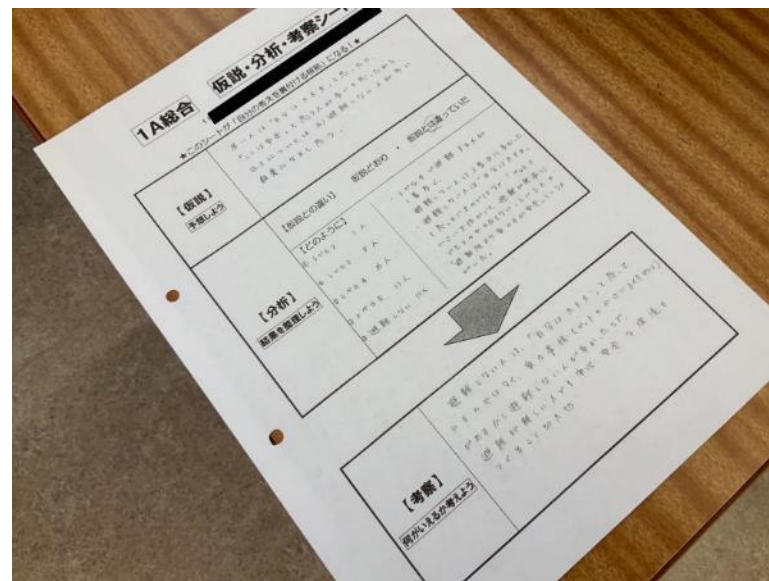
貢献

方策 B 【データ整理】

アンケート結果から問いや次の活動を見出させる



国立呉工業高等専門学校 학생들이 天応地区 対象의 アンケート調査の結果を学習に活用。



左記の調査の結果を自分たちなりに分析・考察しながら、その考察を検証する調査をさらに自分たちで実施。次なる活動につなげた。

方策 C 【プロジェクトの立ち上げ】 【必要な情報収集】



「防災力」とはどのような力か，自分たちで検討。「備え力」「情報収集力」「きずな力」と定義した。

地域のそれらの力を高める取組を実施することに決まる。



地域の避難所見学



市の防災担当者との意見交換会

方策 G 【他者との協働】

方策 F 【失敗の経験】

地域ボランティア団体と連携



他学年との意見交換



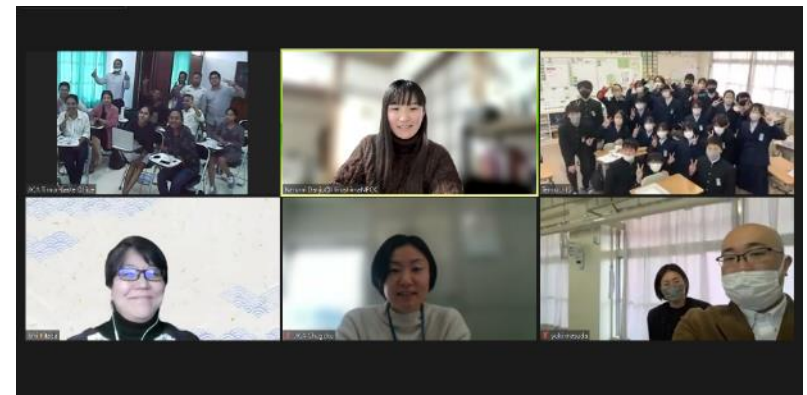
自分たちが考えた取組案を伝えるが、「〇〇な場合はどうするの」等と指摘され、内容を再検討しなければならなくなった。改善点を粘り強く考え、再度提案したりしながら、取組を決めていった。

方策 H 【提案型のゴール】

幼稚園児への読み聞かせ



東ティモールとの交流



開発単元 (9年総合)

防災学習 SDGs

本質的な問い 天応で育った自分は、どう生きるのか。

単元名 「夢そして未来」防災プロジェクト～地域とつながり防災を考える～

児童生徒の実態

- ・防災・減災について、これまで継続して学んできている。
- ・復興や地域のために貢献しようという意欲がある。
- ・活動に主体的に取り組めないところがある。
- ・自分の意見を根拠をもとに伝えることに関心がある。

目指す具体の姿（育成を目指す資質・能力）

防災・減災の実現や世界的な諸課題の解決に向けて持続可能な取組について理解するとともに、情報を整理し根拠を明らかにしながら考えをまとめ、地域社会に主体的・協働的に貢献しようとする。

単元を貫く問い 豪雨災害を経験した私たちだからこそできる取組とは何だろう。

【探究課題】 豪雨災害とSDGs～豪雨災害を減らす持続可能な取組～

【第3次】（10時間）

課題 「Change the future プロジェクト」～みんなでやろう“天応SDGsウィーク”～を実施し、地域でSDGsに取り組もう。

個別の問い

- ・他の人を巻き込み、一緒になってSDGsに取り組める方法はないか。
- ・やってみようと思える取組にするためには、どうしたらよいか。
- ・どのような方法で「天応SDGsウィーク」をアピールできるだろうか。
- ・外部専門家のアドバイスを聞いて、取組案をどのように修正できるか。

在校生、未来の後継者、
地域・保護者

SDGs

（しかけ）

第2次での発信を見た（聞いた）人からのアンケートをもとに、自分たちが学んだことを持続可能な社会へとつなげるために、他と一緒にSDGsに取り組む「天応SDGsウィーク」を企画させる。

【第2次】（15時間）

課題 世界的な視点に立って、豪雨災害を防ぐ方法を見つけ、私たちにできることを発信しよう。

個別の問い

- ・豪雨災害が増えているのはなぜだろう。
- ・自然災害を防ぐため、世界にはどのような取組があるか。
- ・SDGsとは何か。
- ・私たちができることをどのように発信すればよいか。

地域・保護者、他校の生徒

SDGs

文化祭、他校との交流会

（しかけ）

第1次の中で出た「雨と地球温暖化との関係」について疑問を投げ、生徒の問いや思考をもとにして、学習の視点を世界的視野へと展開していく。

【第1次】（10時間）

課題 今年の災害対策を発信しよう。

在校生
(中学1・2年生)

個別の問い

- ・「今年は例年より梅雨入りが早い」というニュースからどんなことを考えたか。
- ・今年の梅雨の特徴は何か。
- ・アンケートの結果から、私たちにできることは何か。

時事ニュース

（しかけ）

中学1・2年生に「梅雨や豪雨災害に関するアンケート」をとり、その結果から「今年の豪雨災害対策」について考え、発信する大切さに気付かせる。

見直しポイント

探究的な学習の過程に沿った単元構成

- ①単元を通して、資質・能力を育成する「探究課題」等を設定しているか。
 - ・解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や、一つの正解が存在しない課題となっているか。
 - ・児童生徒が日常生活や社会に目を向け、解決したいと思える課題となっているか。
- ②児童生徒の思考を想定し、効果的な過程になっているか。
 - ・活動をこなすだけになっていないか。
 - ・児童生徒から問いを生み出すきっかけがあるか。
 - ・学習したことを表現する場を設定しているか。
- ③サイクルとサイクルのつながりがスムーズになっているか。
 - ・第○次だけで構成していないか。
 - ・第○次のまとめと次の課題設定がつながっているか。

方策 I 【問いの階層整理】

本質的な問い

天恵で育った自分は、どう生きるのか。

単元名

「夢そして未来」防災プロジェクト～地域とつながり防災を考える～

児童生徒の実態

- ・ 防災・減災について、これまで継続して学んできている。
- ・ 後輩や地域のために貢献しようという意欲がある。
- ・ 活動に主体的に取り組めないところがある。
- ・ 自分の意見を根拠をもとに伝えることに課題がある。



目指す具体の姿（育成を目指す資質・能力）

防災・減災の実現や世界的な諸課題の解決に向けて持続可能な取組について理解するとともに、情報を整理し根拠を明らかにしながら考えをまとめ、地域社会に主体的・協働的に貢献しようとする。

単元を貫く問い

豪雨災害を経験した私たちだからこそできる取組とは何だろう。

【探究課題】 豪雨災害とSDGs～豪雨災害を減らす持続可能な取組へ～

第1次

課題：今年の災害対策を発信しよう。

【しかけ】中1，中2対象の災害に関するアンケート結果から，「今年の災害防止対策」を考えさせる。

探究

第2次

課題：世界的な視野に立って豪雨災害を防ぐ方法を見つけ，発信しよう。

【しかけ】生徒から出た「雨と地球温暖化」を取り上げ，生徒の思考や発想をもとに，世界的な視野に広げさせる。

対話

第3次

課題：みんなでやろう天応SDGsウィーク

【しかけ】自分たちの学びを持続可能な社会につなげるため，天応SDGsウィークを企画・実行させる。

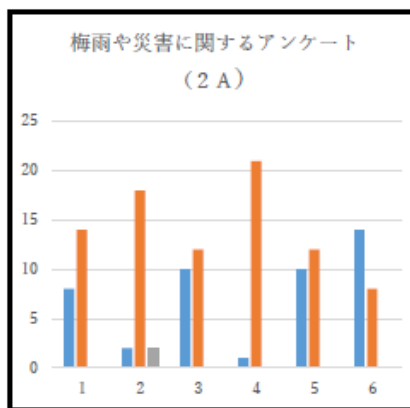
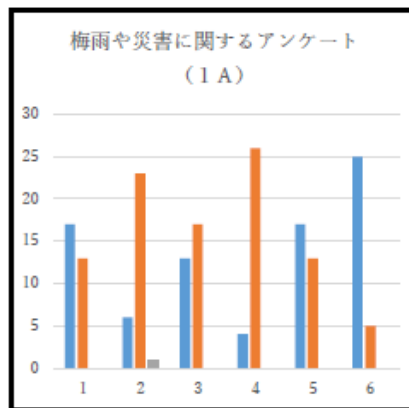
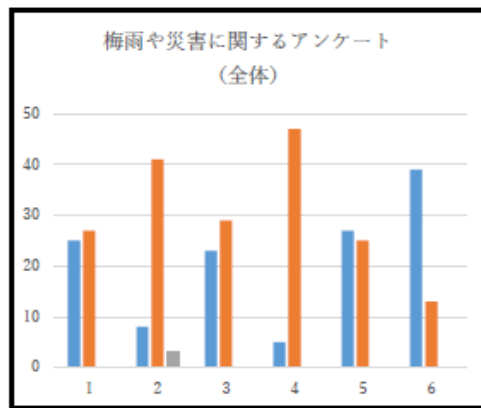
貢献

方策 B

【データ整理】

アンケート結果から
問いや次の活動を見出させる

梅雨や災害に関するアンケート		はい (2のみ) いつも通り	いいえ 早い	
				わからない
1	「梅雨」とは何か、説明できますか。	25	27	
2	今年は、5月15日ごろに梅雨入りしました(中国地方)。今年の梅雨入りは、いつも通りですか。それともいつもより早いですか、遅いですか。	8	41	3
3	毎年いつごろに梅雨入りするのか知っていますか。	23	29	
4	今年の梅雨の特徴を説明できますか。	5	47	
5	2018年(平成30年)西日本豪雨災害が発生した理由を簡単に説明できますか。	27	25	
6	大雨による災害に対して、どんな対策をしておけばいいか説明できますか。	39	13	



方策 E 【対応策の準備】

子供自身で問いを出す活動

次の学びや活動を引き出す

子供の発想を想定できる
対応策を検討しやすい

深掘りタイム (3) 年 (4) 番 名前 ()

『世界的に異常気象が増えている』

この言葉を、さらに深掘りしてみよう！

疑問点	2021年はどんな異常気象がおこっているのか
調べた内容	高温…東シベリア西部～中部, 中央アジア南東部 など 多雨…ジャワ島, ドイツ南部及びその周辺 など 少雨…トルコ東部及びその周辺 など 低温…オーストラリア西部
参考文献	data.jma.go.jp (国土交通省気象庁)
疑問点	異常気象の原因
調べた内容	これまでは偏西風の蛇行や台風などの気象擾乱、大気の内外部変動や海洋との相互作用ととらえていた… 最近では、大気中の温室効果ガス濃度の上昇が、それと伴って地球の平均気温が上昇し、降雨パターンが変動し、発生頻度が高まっている
参考文献	apiste.co.jp
疑問点	異常気象が続くと地球はどうなるのか
調べた内容	異常気象→漁業にも影響する 大陸と海の間にある国々は多方面から影響を受けやすい 海水温度が上がるたびにどんな異常気象が起きても不思議ではなくなる
参考文献	secev.co.jp
疑問点	気温上昇で起こる問題はなにかあるのか
調べた内容	・高潮や沿岸部の洪水、海面上昇による健康被害や生態系のリスク ・熱波による死亡や疾病、気温上昇や干ばつによる食料不足や ・水資源不足と農業生産減少、食料安全保障の問題 ・大都市部の内水氾濫による人の健康被害や経済的損失のリスク など
参考文献	wnf.or.jp (気温上昇で表面化する8つのリスク)

方策 G 【他者との協働】

方策 H 【提案型のゴール】

文化祭での発表



熊野中との交流



【私たちのSDGs宣言】

気候変動を引き起こす二酸化炭素の排出を減らすため、友達や家族と一緒に行動しながら、食品ロスやプラスチックゴミを削減していきます。

方策 C 【プロジェクトの立ち上げ】

方策 G 【他者との協働】

小6を対象としたエコバッグづくり体験



Change the Future プロジェクト
～天応SDGsウィーク～

オリジナルステッカー作成



ループリックの活用・振り返りの充実

ルーブリックの活用

生徒への提示と自己評価

小単元① 【思考・判断・表現】 評価規準			
調べたことや分かったことを相手や目的に応じて整理し、自分なりの考えを表現している。			
小単元① 【思考・判断・表現】 ルーブリック			
A	B	C	【自己評価】
過去に天応で起こった災害の記憶を今につなげるため、相手意識や目的意識を持って自分の考えをまとめ、 <u>当時の記憶だけでなく、今後の日常生活や学習に向けた提案なども合わせて</u> 、相手にわかりやすく伝えることができた。	過去に天応で起こった災害の記憶を今につなげるため、 <u>相手意識や目的意識を持って自分の考えをまとめ、当時の記憶を相手にわかりやすく伝えることができた。</u>	過去に天応で起こった災害の記憶を今につなげるため、相手意識や目的意識を持って自分の考えをまとめることが不十分だった。また、当時の記憶を相手にわかりやすく伝えることができなかった。	A ・ B ・ C 【その自己評価にした理由】

ルーブリックに基づく指導案の事前検討と研究協議

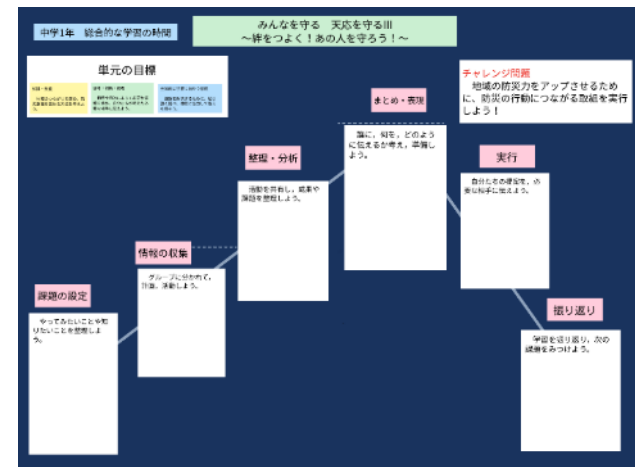
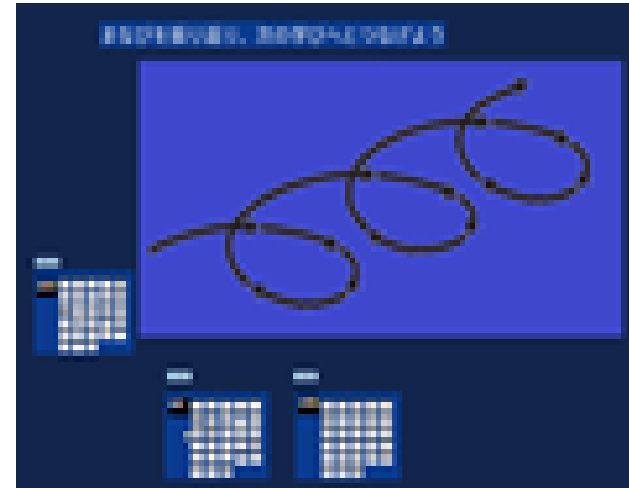


振り返りの充実①

ICT機器の活用

私たちははじめ、各地域の高齢者さんたちを対象にしていたけど1人では避難しにくい人たちのことも考えると、足の不自由な人などの近所に住む人たちを対象にしようと考えた。その人たちで足の不自由な人と一緒に避難してもらいたいと思った。近所に住む人たちが足の不自由な人を誘導して避難してもらうために話し合う機会が必要だと考えた。

タブレット上で作成した振り返りを
専用のシートに保存



振り返りの充実②

1枚ポートフォリオ

The diagram shows a 1-page portfolio layout with a red box highlighting the 'Unit Inquiry' section. The layout includes a central column with four boxes: ① 課題設定 (Topic Setting), ② 情報収集 (Information Collection), ③ まとめ・表現 (Summary/Expression), and ④ 整理・分析 (Organization/Analysis). The 'Unit Inquiry' section is located on the left side, containing a title box and two main text boxes: '【単元のはじめ】' (Start of Unit) and '【単元のおわり】' (End of Unit). A large blue arrow points from the 'Unit Inquiry' section towards the right side of the page.

単元を貫く問い

「地域の防災力を向上させるためにはどうすればよいだろう。」

【単元のはじめ】

(地域
区ごとで)
呼びかけをしたり、地域全体で避難訓練を行うなどの取り組みをすればよいと思う。

【単元のおわり】

呼びかけや、ポスターなども「防災力」を向上させるよい案だと思うけど、一方的な方法だけでなく、実際はどうか、地域の方々の声や意見を聞き、そこから考えたことを実際、やってみるとよいのではないかなと思います。

単元を貫く問い

「地域の防災力を向上させるためにはどうすればよいだろう。」

【単元のはじめ】

もしその時のために日頃から食料の準備をしていく。

【単元のおわり】

総合の時に考えた、「地域の方との交流を増やすこと」が私は一番大事だと思った。もしその時に頼れるし、頼られることもあるかもしれないので、そこである程度相手のことを理解しておくことが、きっとできるし、安心することにつながるから。

研究を下支えする取組

外部人材との協働学習

呉工業高等専門学校 教授・学生の皆さん



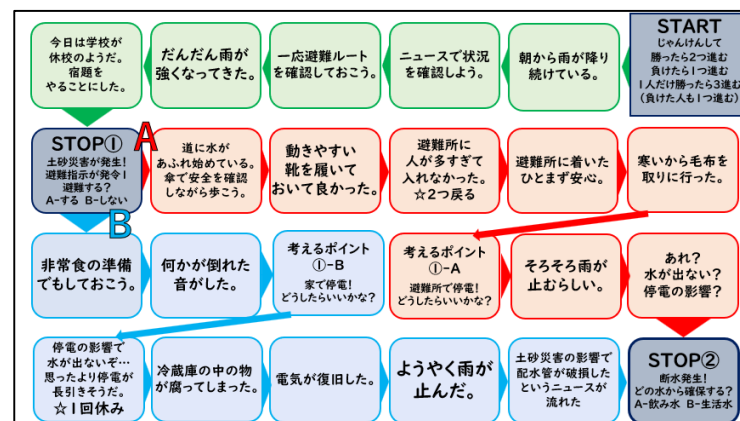
外部人材との協働学習



防災動画



現地踏査を通じた 地区別手作りハザードマップ



防災すごろく

統計グラフコンクール

なぜ日本の給料は上がらないのか？

1



現代の日本は給料が少なく
ニュー入などで給料を上げてほしいとい
う人々が多く挙げられています。
上の課題から今から出すグラフをもと
に考えていきましょう。

2



国産の良さを
国産の良さを
国産の良さを
国産の良さを

『2022年のGDP(国内総生産)ランキング』

順位	国名	GDP(10億ドル)
1	アメリカ	22,679.27
2	中国	16,642.38
3	日本	6,378.13
4	ドイツ	5,379.28
5	フランス	3,124.40
6	インド	3,007.27
7	ブラジル	2,938.27

①日本のGDPは世界第3位
→ 経済大国の地位を失った

②ではなぜGDPは他の国よりも上回らないのか？
(GDP/GNPの差)
= GDP - 海外からの所得 = GNP

3

② できたこと
やってみよう

順位	姓	人数
1	山田	10,233
2	田中	8,025
3	鈴木	8,514
5	佐藤	6,385
13	高橋	4,623
18	山本	4,107
19	日本	4,098
20	山口	3,631

【G7 各国の所得倍増率】

国	所得倍増率 (年)
日本	12.5
米国	13.5
西独	14.5
英独	15.5
仏独	16.5
意独	17.5
米独	18.5

【消費税の推移】

年	消費税率	平均消費税は上 昇しているため 物価も上がる が、それによって 税収が上がる という、
1989年	3%	
2016年	8%	
2017年	8%	
2019年	8%	
2021年	8%	
2025年	10%	消費税が上がる → 物価も上がる → 税収も上がる

5

●日本は：
中国は新
技術を開く
い中国は
工業でない
同じぐら
わかる
↓
●日本の理

【日本の文理割合】
(ambls.jp)

A pie chart titled '【日本の文理割合】 (ambls.jp)'. The chart is divided into two segments: a red segment representing '文系' (Liberal Arts) at 70%, and a blue segment representing '理系' (Science) at 30%.

Category	Percentage
文系 (Liberal Arts)	70%
理系 (Science)	30%

(naji mukablog 5809.0)

理系 45%
 文系 55%

外国と比べてどう?

入手 復に 3ヶ月内
[JS58.com/school/JS58.com/]

国大	117,600	0.03%
公立大	地城内 764,786	1.05%
	地城外 928,493	50.7%
私立	文科系 1,864,922	1.1%
	理科系 1,544,962	1.1%

7

第一種(無列名)

[illegible]

② 文理にわらず大学で
奨学金の上昇がきつても
↓
③ 理系の人をもち増やす
には 理系奨励給に人
間学全を2倍にする
などした方がいゝ。

(まとめ)

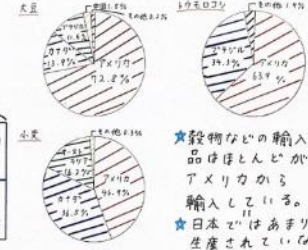
給料を上げるためには
 1. 日本のGDPを上げる必要がある
 2. 工業を盛んにしないといけない
 3. 理系の人数を増やさないといけない
 4. 奨学金を理系選択した人には2倍にするなどして、脅す必要もある

日本の食料自給率が低いのはなぜ!?

1 食料自給率とは何か？

国内で消費される食料のうち
どの程度が国内産でまかなわ
れているかを表す指標。

2. 日本 の 主 な 輸 入 品



食料の安定供給

国内生産——食料自給率

輸入

備蓄

農地・農業用水等の農業資源	潜在生産力
農業技術	生産量
農業就業者	漁業就業者

(資料來源)

3. 食料自給率と食料国産率

牛肉の食料自給率
(カロリーベース)

飼料自給率反降12%



- ・国産飼料のみで生産可能な部分を厳密に評価できる。

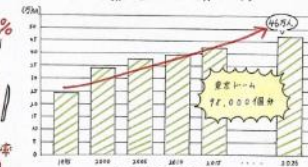
牛肉の食料自給率
(カロリーベース)

45%

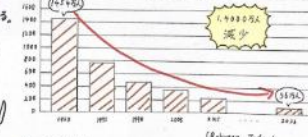


畜産業の活動
を反映し、
国内生産の
状況を
評価できる。

4. 耕作放棄地の面積推移



(50) 国内農家数



5. まとめ

農家が減って食料のほとんど
が輸入に頼っているから国産
の物を食ったり農業に興味を
持つなどの取り組みが必要に
なってくる。

児童生徒の変容・成果 (R5年度)

児童生徒の変容・成果

前期課程

前

遊びを楽しくするための具体的な記述が見られない。

「身の回りの草花で遊んでみよう」の振り返り

② わかったよ！ こうやったら できたよ！

ともだちのをみたりやわらった。

⑦ もっと やってみたいな

ねにいらしていろいろつくってみたい。

秋のおもちゃづくりの振り返り

② うまくいったこと・くふうしたこと

せろてープのはりつけがうまくできた。

③ うまくいかなかったこと・こまったこと

いろぬい。

④ もっとこうしたい！

もっとたのしくしたい。

楽しく活動はできているが、「いろいろつくってみたい」「もっとたのしくしたい」とは思っているが、どのようにしたらよいか具体的な記述が見られない。

前期課程

後

アドバイスを生かし、試しながら改良することができた。

「わくわくおもちゃランド」後の振り返り

① きょう やったこと	② おもちゃ コーナー
B: アドバイス	
② A: ともだちに おしえて もらったこと B: ともだちに おしえて あげたこと	
も、とひもをながくしたらしいよ。	
もうちょっ、としんだまのか、ずをふ、や	
したらしいよ。	
★がくしゅうを ふりかえろう。	
③ たのしく かつどう できましたか。	😊😊😊
④ ともだちと なかよく かつどうできましたか。	😊😊😊
⑤ ともだちの よかったところ	
ともだちが、やさしかったことです。	
⑥ きょう おもったこと・ つぎの じかんの けいかく	
つぎのじかんはもうちょっ、としんだまのか、ずをふ、やします。	

★がくしゅうを ふりかえろう。	
① たのしく かつどう できましたか。	😊😊😊
② ともだちと なかよく かつどうできましたか。	😊😊😊
③ ねんちょうさんが たのしめるように ルールを かんがえることが できましたか。	😊😊😊
④ ねんちょうさんに あそびかたを せつめいすることが できましたか。	😊😊😊
⑤ おもちゃランドに むけて がんばったこと	
ねんちょうさんにうまかつたえたこと。	
⑥ あきの たのしさを つたえよう!	
あそびのものでつくるのがたのしい。	

友達のアドバイスを参考に、自作のおもちゃをより良くする具体的な方法を考え、試行錯誤しながら改良させることができた。

「おもちゃランド」で、年長児に作り方や遊び方を説明させるなど進んで関わらせる中で、自分で考えて行動させたり、自分の成長を感じさせたりすることができた。

後期課程

前

「自分の将来の夢や目標」について深く考えていなかったり、「どんな生き方をしたいか」については考えも及んでいなかったりした。

生き方に関するアンケート(R5.6.15実施)

- | | |
|---------------------------|--------|
| ① 自分の長所や短所を理解 | 87.0 % |
| ② 将来の夢や目標をはっきり持っている | 56.5 % |
| ③ 将来を考える時、過去や現在を振り返ることは大事 | 87.0 % |
| ④相手に思いや考えを分かりやすく伝える | 78.3 % |
| ⑤ 難しいことでも失敗を恐れず挑戦する | 73.9 % |
| ⑥ 人の役に立つ人間になりたい | 91.3 % |
| ⑦ 自分が大切にしている生き方や価値観がある | 65.2 % |

単元を貫く問い

「よりよい将来の実現のために何が必要か？」

生徒A

お金 
得意なこと
夢
漫画
家 

生徒B

- ・ 目標
- ・ 心地よい環境

生徒C

より良い将来のために自分の好きな事を続けたり、なりたい物によって我慢すること

生徒D

1人1人が自分を大切にする
後先のことを考えて行動する
自分の生き方は自分で定める

②と⑦の項目の肯定的回答がそれぞれ56.5%、65.2%と特に低くなっており、自分の夢や生き方を考えていない生徒が多い。また、単元を貫く問いの回答として、物理的なものを挙げる生徒や主観的な思いや漠然とした希望に依る考えを挙げる生徒が多い。

後期課程

後

自己と向き合ったり、多様な考えに触れたりすることで、自分なりに大切にしたい生き方等を見出すことができる。

【事後】「生き方に関するアンケート」(R6.2.8実施)

① 自分の長所や短所を理解	100.0 %
② 将来の夢や目標をはっきり持っている	85.0 %
③ 将来を考える時、過去や現在を振り返ることは大事	95.0 %
④ 相手に思いや考えを分かりやすく伝える	95.0 %
⑤ 難しいことでも失敗を恐れず挑戦する	80.0 %
⑥ 人の役に立つ人間になりたい	95.0 %
⑦ 自分が大切にしている生き方や価値観がある	100.0 %

数値が大きく改善

単元を貫く問い
「よりよい将来の実現のために
何が必要か？」

生徒A

はっきりした目標とそれを支えてくれる仲間が必要だと思いました。

生徒B

- ・自分の将来の夢や目標をもっておく
- ・地域の方々や人との関係性を大切にする
- ・色んなひとの生き方を調べたり、聞いたりする

生徒C

苦手な事に立ち向かう、好きな事を極める、自分だけでいいじゃなく周りにも意見も求める、これらの事が必要だと学習を通して学ぶ事ができました。

生徒D

- ・自分がやってみたいと思うことには思いきってチャレンジしてみる。
- ・自分の目標と向き合ってそのために必要な努力をする
→後悔のないように
- ・人との縁を大切にして感謝を忘れず。

生徒の振り返りより
(単元の最後)

単元の学習前の自分は、将来のことなんかどうにかなるでしょ、まだ早い。と思っていました。しかし、この学習を進めていくことにより、将来のことをよりよく知り、今のうちからできることはないかとも考えるようになりました。暇な時間とかに自分がなりたい仕事、夢のことについてよく調べるようになりました。また、生き方についても考えが変わりました。前までは、自分の好きなことをすればいいと思っていました。でも、将来の夢、目標を決めることにより、その目標を達成するために必要なこと、日頃からしていくことなどを考えるようになりました。「将来なんかどうでもいい→将来の夢に向かって生きる」、こんなにも考えが変わったのは、自分史作り～座談会までの学習があったからこそだと思います。これからは、夢、目標に向かって今からでもちよっとずつ努力していきたいです。本単元の感想は、将来のことについてもっとよく知りたいと思いました。しっかりと目標を達成できるように必要なことを考え、努力を続けていけるような人になりたいです。

単元を貫く問いの回答では、「自分の内面・考え方に関わる内容」や「人とのつながりに関わる内容」を挙げた生徒が多く、視野の広がりや考えの深化が見られた。

単元の終末の振り返りの記述では、自分の意識の変容に気付くとともに、これからの生き方や具体的な行動の在り方について、主体的・意欲的に考えている様子が見て取れる。

対象：5年～9年

実施日：令和5年4月，令和6年1月

令和5年度 校内学習アンケート(肯定的な回答%)

項目	(1) 課題意識	(6) 整理・分析	(8) 表現
4月	97.0%	91.7%	89.2%
1月	96.2%	95.0%	93.3%
前後差	- 0.8%	+ 3.3%	+ 4.1%

(1)授業では，解決しようとする課題について，「なぜだろう」、「やってみたい」と思います。

(6)授業では，情報を，比べたり(比較)，仲間分けしたり(分類)，関係を見付けたり(関係付け)して，何が分かるのかを考えています。

(8)授業では，自分の考えとその理由を明らかにして，相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。

カリキュラム・マネジメントの充実 ～指定3年間をまとめて～

A

Action 現状把握・対策・改善

- ・学年間で学習内容が重複
 - ・他教科等との関連が図れていない
 - ・児童生徒の実態の未把握
 - ・探究のサイクルの意識不足（指導体制の充実の必要性）
 - ・どのように防災教育に取り組んでいるかが不透明
 - ・「表現」に関する学習意識の伸び悩み 等
- ↓
教育課程における位置づけを明確にするとともに、一覧表等で内容を整理し、教員の意識向上を計画的に促進する必要がある。

Check 分析・評価

- ・学習アンケートの結果をもとにした児童生徒の探究的な学習に関する意識の分析
（質問項目の内容は広島県児童生徒学習意識等調査を踏襲）
- ・新しく設定したカリキュラムマップ及び全体計画・年間指導計画や防災教育一覧表等の点検
（次年度に向けた研修計画やカリキュラム・マネジメントの方向性を確認）
- ・持続可能な探究的な学習に向けた指導体制の点検

C

P

Plan 計画

- ・探究的な学習を進める上での課題と方策を整理（再検討）
- ・学年間の系統性を整理及び修正
- ・生活科及び総合的な学習の時間と各教科等との関連を整理
カリキュラムマップや総合的な学習の時間の全体計画及び年間指導計画等への反映
- ・呉版年間指導計画を活用した各教科等の関連の見える化
- ・小中合同研修（学園全体研修）において、PBLや問いに関する理論研修や授業づくりに関する研修、各教科の担当教員間で特に重点を置く単元や領域を検討する研修を計画
- ・防災教育に関連する単元や行事等を一覧化
- ・TTによる指導体制の充実 等

Do 実行

- ・整理した「課題と方策」をもとに、「データからの問い」「体験で終わらない取組」「他者との協働」「提案型のゴール」等を意識した授業づくりを行った。
- ・外部人材を積極的に活用し、学習の深化や取組の充実を図った。
（国立呉工業高等専門学校、学校運営協議会、地域団体 等）
- ・他地域の学校やNPO団体とつながり、学習の成果を他者に発信する機会を積極的に設定した。
- ・「本質的な問い」や「単元を貫く問い」等、教員の「問う力」を高めるための研修を行った。
- ・教員間の取組や困り感等を共有し、授業展開について考え合える研修を行った。
- ・1枚ポートフォリオを活用したり、探究のサイクルを意識して毎授業の振り返りシートを蓄積したりした。
- ・ルーブリックに基づく授業づくりと研究協議 等

D